

Rotary



District 2510

学友会 News Letter

New Series Vol.1

2017年5月27日(土)



**地区大会並行プログラム 2016-2017年度
国際ロータリー第2510地区**
青少年・学友・RYLAプログラム

平成28年10月2日
札幌パークホテル、ザ・テラスルーム

次 第

10時10分	開 会 委員長紹介	司会 長田 正文 長田 正文
10時10分	学友委員長挨拶 参加者紹介 委員会事業紹介	学友委員会委員長 菅原 秀二
10時40分	国際奉仕事業について	直前国際奉仕委員長 松原 重俊
11時00分	趣旨説明	長田 正文
11時15分	ワークショップ説明 グループリーダー、サブリーダー 書記、タイムキーパー選出	長田 正文
11時50分	昼 食	
13時00分	記念講演（会場：パークホテル） 演題「日本のロータリー100年と2020東京五輪のレガシー」 講師 水野正人氏 ミズノ株式会社会長	
14時40分	青少年・学友・RYLAプログラム（会場：ザ・テラスルーム） 議題 1. オリンピック、パラリンピックからの学び 2. 国際交流について 3. 地域創生について	
15時45分	講 評	パストガバナー 羽部 大仁 様
16時30分	懇親会（会場：エメラルド）	
	乾 杯	奉仕プロジェクト委員長 山口 史朗 様
18時00分	懇親会終了	

地区大会並行プログラム 「青少年・学友・RYLAプログラム」を終えて

RYLA担当委員長 正 文 岩見沢東RC
学友委員会委員長 菅 原 秀 二 札幌大通公園RC

2016-2017年度地区大会の並行プログラムとして開催されました「青少年・学友・RYLAプログラム」は、実施にたどり着くまで紆余曲折が多々ありましたが、地区の各青少年委員会のご協力のもとなんとか無事成功させることができました。これも櫛引地区幹事を筆頭に、関係委員会の皆様のご協力の賜物と感謝しております。ありがとうございました。

さて当日はインタークトクラブ、ロータクトクラブ、財団学友・奨学生、青少年交換留学生、ROTEX、米山学友・奨学生、RYLA学友、RCC学友の総勢102名の参加で開催されました。

プログラムは記念講演をはさんで午前と午後の2部構成でした。午前の部では菅原学友委員長の挨拶と各委員会事業の紹介で始まり、直前国際奉仕委員長の松原重俊氏はパワーポイントでロータリーが世界でどんな事業を行っているのかを具体的に示して、第2510地区の事業が世界の人達にどれだけ喜ばれているのかを紹介していただきました。

その後、午後に開催される「ワークショップ」の説明とグループでのリーダー等を決め、大変美味しいカレーライスの昼食をとり、水野正人氏の記念講演を聴いて、午後の部の「ワークショップ」を行いました。ワークショップの前に記念講演をしていただいた水野正人氏が会場に来られ、色々なお話を来ていただきました。参加した学友の皆様は水野氏の話に真剣な眼差しで聴いておりました。ワークショップでは①オリンピック、パラリンピックからの学び②国際交流について③地域創生の3つの議題でワークショップを行いました。ちょっと議題が難しかった様で、結果的にはその中で最も話しやすい国際交流についての議論が多かった様ですが各グループとも非常に活発な意見交換が出来ておりました。

最後の懇親会では、各グループからの発表を軸に、歌ありダンスありの楽しい懇親の宴となりました。この場をお借りして、ご参加ご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。



水野会長と菅原委員長



ディスカッションの様子

日本ロータリー学友会活動に参加して ～ロータリー財団100周年記念シンポジウム報告～

RI第2510地区財団学友会会長 鈴木抄織

私たち財団学友会の全国組織が日本ロータリー学友会です。現在国内34地区のうち24地区で学友会が活動しており、年に一度総会を開催して、全国から集った学友が情報交換やディスカッションを通じて交流を深めています。総会の開催地は主に東京ですが、2015年には福岡で初の地方開催、また今年の11月には神戸での開催が決定しています。当地区学友会は北海道からの参加ということで、費用・日程的に調整が大変ですが、毎年複数の学友が参加し会を盛り上げています。RI本部からの補助金を活用して旅費を工面できることが、参加を継続できる大きな助けになっています。

学友会を構成しているメンバーのほとんどがロータリー財団の留学プログラムで留学し、支援を得て貴重な体験をさせていただいている。そのロータリー財団が100周年を迎えるにあたり、学友から感謝の気持ちを形にしようとの思いで「100周年記念シンポジウム」の企画が立ち上がりました。私は現在東京在住のため、幹事の一人として企画・運営のお手伝いをさせていただきました。

できるだけ多くのロータリアンの皆様にこの会に参加していただけるように、ロータリー研究会が行われる前日を開催日に決定、アクセスのよい会場を確保、研究会に合わせて来日されるRI会長に出席いただけるようRI本部に掛け合い、世界の第一線で活躍する学友をシンポジストとして招くよう様々な手配・調整を行い、ロータリアンの皆様から賛助金をいただき、また全国の学友に呼びかけて運営費用のための「100分の1の恩返し募金」を募りました。

シンポジウム前日に「第6回日本ロータリー学友会全国総会」を行い、全国の学友が力を合わせて当日の運営を行いました。当地区からは6名が参加し、会場案内業務や、RI会長ジョン・ジャーム氏のアテンド業務を行いました。

お陰様で会場の収容人数を上回る800余名のロータリアンが参加してくださいました。当地区からは武部ガバナーはじめ5名の方が参加してくださいました。心より御礼を申し上げます。

今後も学友会活動を通じてロータリーの活動に微力ながら貢献してまいりたいと思います。

ジョン・ジャーム会長の挨拶
アテンドは鈴木学友会会長



『学友体験・帰国報告会』 次第 「3F パークホールA」 (13:00~16:00)

〈総合司会〉 本多 宏行 (地区学友委員会副委員長/余市RC)

開会の辞

地区学友委員会委員長 菅原 秀二 (札幌大通公園RC)

開会挨拶

ガバナー 武部 實 (札幌南RC)

第1部 学友体験報告会：パネルディスカッション (13:00~14:00)

〈司会〉 山口 史朗 (地区奉仕プロジェクト委員会委員長/札幌東RC)

〈パネラー〉

・インタークト学友 佐々木 ななみ (札幌龍谷高校：札幌モーニングRC
: 札幌幌南ロータクトクラブ)

・ロータクト学友 竹村 恵一 (赤平ロータクトクラブ)

・RYLA学友 プーワナット・スパークン (Poowanat Suphapkul)
(札幌北RC : 札幌幌南ロータクトクラブ)

・米山学友 何 曜光 (札幌幌南衛星RC : 米山学友会副会長)

(質疑応答)

休憩 (14:00~14:30)

第2部 学友帰国報告会 (14:30~16:00)

〈司会〉 前田 浩人 (地区学友委員会副委員長/苫小牧RC)

1) 「スウェーデン留学を経ての自分」

荒 幹彦 (小樽錢函RC推薦/2015-16年度/スウェーデン/青少年交換)

2) 「イタリアの地方都市」

石田 咲子 (札幌幌南RC推薦/2015-16年度/イタリア/文化研修3ヶ月)

3) 「英国で豊かになった『人生観』」

高橋 侑子 (札幌大通公園RC推薦/2014-15年度/イギリス/グローバル1年)

4) 「ロイヤルキングスクール洋裁授業報告」
富岡 恵 (RI第2510地区推薦/VTT)

(質疑応答)

「新奨学生候補の発表」

斎藤 博司 (地区奨学金委員会委員長/千歳セントラルRC)

講評
閉会挨拶

ガバナー・エレクト 國立 金助 (函館RC)
ガバナー・ノミニー 小山 司 (札幌RC)

「記念撮影」および休憩 (16:00~16:30)



『懇親会』次第 「3F パークホールC」 (16:30~18:00)

〈司会〉 小笠原 肇 (地区学友委員会/札幌大通公園RC)

1. 開会の辞 地区学友委員会委員長 菅原 秀二 (札幌大通公園RC)

2. 祝辞・乾杯 ガバナー 武部 實 (札幌南RC)

3. 会食

4. 余興

5. 記念品贈呈 ~学友委員会 李 英愛から報告者へ~

6. テーブルスピーチ
第2510地区第4グループガバナー補佐 竹原 巍 (札幌北RC)
米山学友会会长 汪 志平
財団学友会幹事長 鈴木 洋史

7. 閉会挨拶 ガバナー・エレクト 國立 金助 (函館RC)

2016-17 学友体験・帰国報告会パネルディスカッション

佐々木 ななみ（札幌幌南ロータクトクラブ／インターラクト学友）

竹 村 恵 一（赤平ロータクトクラブ／ロータクト学友）

プーワナット・スパークン（札幌幌南ロータクトクラブ／RYLA学友）

何 曜 光（札幌幌南ライラックロータリー衛星クラブ／米山学友）

① 自己紹介を兼ねた近況

(佐々木)

東海大学札幌キャンパス3年生の佐々木ななみです。私は高校1年から3年生の時まで、札幌龍谷学園高校に在学し、インターラクト部に所属し、高校3年生の時に、インターラクトの部長を1年間やっていました。現在は、大学では、国際文化学部国際コミュニケーション学科に在学しています。ちょうど1月初旬まで、国際交流サークル（IFA）の部長をしていました。春からは4年生になり、教育実習と卒業論文が始まります。大学で、教育や異文化について学んでいます。

(竹村)

RAC所属時から病院勤務をしています。6年前から地元赤平で市議会議員をやっていますが、これもRACとして活動し地元で何かやりたいと言う気持ちからの行動に繋がったものだと思います。

(プーワナット)

タイ・バンコク出身のプーワナット・スパークンと申します。26歳です。北海道に来たのは、2014年3月です。もともとタイの大学の日本語学科で4年間勉強し、卒業後、バンコクの日系会社で1年間勤めてから、北海道の大学院に留学することにしました。2016年3月に、札幌国際大学大学院の観光学研究科を卒業しました。現在は、合同会社スティーリングに勤めています。通訳とツアーコーディネーターをしています。学友になったプログラムは、RYLA学友プログラムです。2014年4月に参加させていただきました。

(何)

私は中国青島出身の何暁光（カギョウコウ）と申します。2003年に来日し、2008-2009年度の米山奨学生でした。当時の世話クラブは札幌幌南RCです。卒業後道内の企業に就職し、今は二児のパパになりましたが周りにまだ「カーさん」と呼ばれています。現在、米山学友会の副会長と札幌幌南ライラックロータリー衛星クラブの会員です。



② 在籍時の活動について

(佐々木)

私が今でも印象に残っていることは沢山あります。その中でも3つあります。1つ目は、日本

青少年交換研究会に参加したこと。当時の研究会の題材は、「留学の重要性について」でした。この研究会がきっかけとなり、海外に行きたい、留学したいという気持ちを持ちました。2つ目は、高校3年生の時にインターラクトの研修旅行で台湾に行き、現地のインターラクトの子やロータリーの人たちと交流したことです。3つ目は、部長としての責任と葛藤は思い出に残っています。部長としての責任と葛藤した経験は、私が大学で活動していく原動力となっています。3年間過ごした日々の中で共通していることは、①奉仕活動に対する考え方②自分の考えをもつこと、発信することに関してとても大きな影響を受けました。これは、多くの奉仕活動や大会に参加し、大人のひとたちと意見交換をしていたからです。だからこそ、大学生になった当初の私は、自分の存在の価値を見出して興味があることややりたいことをやっていました。なので、私は、海外留学をしたり、大学でスウェーデンの留学生と交流したり、日本語の歌を教えたりしています。

(竹村)

6年間の在籍中3回海外研修を体験させてもらいました。とても思い出深いです。特に学んだ事は「人とのつながり」や「異文化体験の大切さ」「仲間との活動」「何かをやり遂げる事の大切さ」です。地区代表と言う貴重な体験も周囲に支えられ体験できました。

(ペーワナット)

ロータリアンの田中先生の推薦で、RYLA学友セミナーに参加させていただきました。このセミナーは、ロータリー青少年指導者養成プログラムで、参加者は、これまで指導的な立場で活動してきた経験者や指導者としての素質を兼ね備えた若者です。その時、札幌スポットラリーや、座禅体験や、ディスカッションゲームなどたくさんの楽しい活動をしました。しかし、自分はまだ日本語が下手なので、あまりチームに役に立てなかつたのですが、自分ができる範囲で頑張ってやりました。このセミナーのおかげで、僕はチームで仕事することがとても大事だと勉強しました。今の仕事にも活用しています。

(何)

奨学生の時代に世話クラブの例会及び様々なプログラムに積極的に参加し、ロータリー精神への理解を深めました。学友になった後、毎年の学友会総会は勿論、去年学友会の副会長になった後、会長をはじめ学友会の役員たちのご協力、並びに第2510地区の米山学友委員会の方々のご指導の下で学友とロータリーの絆を強くするために学友歓迎会、豊平川河川敷清掃ボランティア活動、会報編集など様々なプログラムを計画実施しておりました。正直、最初米山奨学金を申請するときあくまでも生活と勉強のために奨学金をいただこうという単純な目的でした。しかし、ロータリークラブの例会及び各プログラムに参加するたびに新しい体験、新しい視野、新しい考え方を得ることができ、むしろ奨学金以上の価値があると思うようになりました。ロータリーとの出会いは私にとって自分の価値観、人格を大きく変えることができました。まったく接点のないはずの人とロータリークラブを通じて友達になったり、社会奉仕で社会への恩返しをしたり、特に2008年の四川大地震の時には、遠い日本なのにロータリアンの方々が寄付して下さったり…これを見て私は自分もぜひこのようなことをやりたい、このような人間になりたいと思いました。



③ 自分にどんな影響を与えたか

(佐々木)

私は、インターアクトのみんなに伝えたいことが2つあります。1つ目は、今やっている活動、他のインターアクトとのつながりを大切にして欲しいと思います。具体的にどう大切にしたらいののかというと、まず、関わっている全ての人へ感謝の気持ちを忘れないでください。ロータリーの人たちがいて当たり前の環境かもしれません。でも、ロータリーの方たちがいるから出来ることもあります。反対に、ロータリーの方たちなしではできないことがあります。そして、顧問の先生がいるから、今のインターアクトという部が存在できるのです。私は大学生になり、高校の時のようにボランティアをしようと思いました。その時に、突きつけられた現実は、今でも覚えています。私は、インターに所属していたからボランティアをすることができていて、でも離れてしまったら、どうボランティアをやっていいのか分からなかったのです。その時に、いかにロータリーの人たちが支えていてくれて、できた経験が多いことを知りました。そして、今大学で中高の教職資格を取るための、授業を取っています。その授業から、先生の立場がいかに、大変であるか、ということを知りました。なので、関わっている全ての人への感謝を忘れないでください。2つ目は、今高校生活で自分がやっていることを大切に、そして、失敗を怖がらずにいろいろなことに挑戦して行ってください。高校の時の経験はその後の進路や生活に大きく影響を与えます。なので、自分がやりたいなと思ったことにはどんどん挑戦して行ってください。もし、自分のやりたいことに条件があったりして、それが壁となったら、乗り越えるイメージは大変だと思うので、その壁をちょっとずつ溶かすようにして自分の目標を達成できるようにして行ってください。

(竹村)

1つは地元の為に何かをやりたいと言う気持ちをRACの活動で持てました。もう1つは活動に参加する事で、自分の価値感が広がる事、人間性が広がったと思いました。そういう体験や経験を現在のメンバーや若い人にも伝えたいです。

(プーワナット)

3つの大きな影響がありました。まず、札幌幌南ロータクトになったことです。RYLAセミナーのおかげで、たくさんの友達ができて、アクトを招待してくれたから、とてもうれしかったです。アクトに入って、3年経って、たくさんの楽しい活動をしました。次は、ロータリーとの人脈です。5年前の大学生の時にロータリーの世界を知りましたが、RYLA学友としても色々なロータリーの活動を手伝わせていただいている。例えば、キッズキャンプとタイとの職業訓練事業です。この3年間で、いつもロータリアンの方々にお世話になっていて、支えてくれている方々がたくさんいらっしゃるので、とても感謝しています。もう一つは去年の3月に大学院卒業して、帰国する予定だったんですが、皆様に恩返ししたい気持ちがあって、札幌で就職をしたことです。アクトの活動をしながら、北海道をタイ人にアピールする仕事を頑張っています。

(何)

奨学生を卒業した後、ロータリークラブで学んだロータリーの精神をお手本に積極的に人のコミュニケーションを取ったり、社会奉仕をしております。今は札幌幌南ライラックロータリー衛星クラブの会員、北海道米山学友会副会長、また在北海道の華人組織北海道中国会副会長を担当しております、昨年の4月に町内会の役員も2年間担当することになり、妻に「過剰じゃないか」とよく言われます。そして、いま所属している札幌幌南ライラックロータリー衛星クラブ

では豊平川の清掃活動、藻岩山登山道の清掃活動、孤児院の訪問、中国チベット極貧地域への不用品の寄付などの活動もしております。北海道中国会でも毎年の日中友好チャリティゴルフ大会の企画運営もしております。個人では東日本大震災の後、生活必需品の現地への寄付、毎月ユニセフへの寄付、赤い羽根募金など社会奉仕、ボランティア活動も積極的に実行しております。

④ 今後の抱負

(佐々木)

今後、将来のビジョンは、海外に出ていくことです。私は、人をサポートする仕事が好きなので、教師になりたいと思っています。海外で教師をすることが、今の目標です。そして、近いうちに叶えたい目標は2月にカナダとバンクーバーとアメリカのシアトルに行くので、海外のロータリーやインタークトの人と会って話したいと思っています。私はロータリーとどう関わっていくか、まだ分かりません。私が、どう行動したいのかも、まだ迷っている最中です。しかし、変わらないことは、ロータリーの人たちとはずっと繋がっていきたいと思います。なぜなら、高校3年間インタークトとして活動をして、ロータリーの人たちにずっと支え続けてもらったからです。辛い時も、失敗してしまったときもロータリーの人たちが声をかけてくれ、励ましてくれたり、精神面を支えてくれたりしてくださいました。だから今の私がいることができるのです。

(竹村)

現役の会員の方達の為にRCとの関わりを通じて協力していきたいと思います。本日の様な機会を通じてRCのプログラムの活動が活発になり、RACや若い方々も多く関わりが続くと良いと思いますので、自分の出来る事は協力していきたいです。

(プーワナット)

今年から30歳まで、恩返しとしてロータリーの活動を手伝いながら、北海道でタイと日本の架け橋として関係をより強くするようなことを色々チャレンジしていきたいと思います。今は、タイ人と日本人が一緒に旅をするツアーをやったり、北海道観光情報を発信するメディアなどもやっています。それに、タイの旅行番組のレポーターもしています。

(何)

今やっている様々なことはロータリーとの出会いがもしなければ、絶対にないと思っております。今後もぜひこのロータリーとの縁を大事にし、ロータリーの精神をより一層理解しより多くの活動及び各種プログラムに参加をしたいと思っております。また、これから学友会を通じて学友及び奨学生たちにこのロータリーとの出会いの素晴らしさ、大事さをぜひ伝えたいと思います。



スウェーデン留学を経ての自分

荒 幹彦（小樽銭函RC推薦/2015-2016年度/スウェーデン/青少年交換）

僕は2015年夏から2016年の夏までスウェーデンに留学させていただきました。スウェーデンといえば、徹底した男女・世代間の平等、高福祉で有名な国だと思います。僕がそこで1年生活している間、「ロータリーの青少年交換は1番良いプログラムだ！」ということを、色々な人から何度も耳にしました。本当にその通りだと思うのですが、それは何故かということを、今日は僕なりの視点でお話したいと思います。

いきなり結論から言ってしまえば、それはこの留学を通して関わる人の数・層・種類がとても多いからです。そして様々な人たちと関わるなかで、世の中には本当に色々な人がいて、たくさんの考え方があるんだということを身をもって知ることができました。

具体的にいうと、1年で出会い、僕と友達になった人は500人ほどいますし、僕が所属していたコミュニティも、パッと思いつくだけで学校の友達、ホストファミリー、ロータリアン、ロータリー留学生、学校の留学生、そして僕の剣道経験を生かして入った町の剣道クラブの6つがあります。これらの年齢・職業・国などが全く違う人達と交流を深め、生活を共にすることで、それぞれの生きている・生きてきた環境によって1人1人がまったく違うこと、またその違いを互いに認め合うことがとても大切なことだとわかりました。

この留学で僕はとても視野が広がり、1人1人を認めることの大切さが、前よりもずっとよくわかるようになりました。また、相手の立場や考えを知ったり、知ろうとすることで、いっそう人に優しくなれると思いました。これからはさらに色々な人と関わりをもって、自分の世界を広げていきたいと思っています。



教室風景



友人と

イタリアの地方都市

石田 咲子（札幌幌南RC推薦／2015-16年度／イタリア／文化研修3ヵ月）

2015-2016年度地区奨学生として、2016年6月より3ヶ月間イタリア・ヴィアレッジョにて文化研修をして参りました。

滞在目的は、イタリア語講師としてもっと知識を深めたいという思いの他に、イタリアの小さな町村（人口は日本の1/2に対して市町村数は3倍もある）がどのように「人を呼ぶ取り組み」をしているのか。食の魅力や田園的な風景という共通点がある北海道とイタリアで、その町のサイズに合った取り組みの実例を調査することでした。

出席させていただいたロータリー（ヴェルシア）の例会は、ちょうど年度変わりで、しかも初の女性会長の就任ということもあって、とても華やかでした。同席したロータリアンから「イタリアは優秀な人材が国外に流出してしまうという問題を抱えていて、ロータリー奨学金で海外で学んでもらい、その後は地域へ戻って貢献してもらうことと、高齢化社会の中で健康に関する講義を積極的に開催し情報を発信してもらう」というお話をいただきました。

調査した町村例は、人口350人程のコロンナータ村。ここで作られる大理石で作られた容器で塩漬けされたラルド（豚の背脂）は、元々貧しい地域で背脂の部分も食料として活用する知恵から生まれたものですが、これがスローフード協会の認定となり、このラルドを求めて人々が村を訪れます。

人口100人程のプルーノ。山の頂に自然に開いた穴があり、この独特の景観を守るために厳しい規制や張り紙で住民に注意を喚起し、村を清潔に保つ取り組みが実り、海外からアーティストが移住するなどの効果が出ている、などです。

新しい物ばかりを作るのではなく、古くからあるものを活かしてそれに何かをプラスするという、物質的ではない豊かさを求める魅力を感じることができ、この機会を与えていただいたことに心から感謝しています。今後は微力ながら北海道発展への貢献に努めていきたいと思っており

ます。

温かく迎えて下さったロータリアンをはじめたくさんの方の姿をお手本に、私も人としてもっと成長してゆきたいと感じております。



コロンナータ村のラルド作り



バナー交換

人との繋がりと人生観

高橋 侑子（札幌大通公園RC推薦／2015-16年度／イギリス／グローバル1年）

2015-2016年度に、グローバル奨学生としてイギリスのイースト・アングリア大学大学院で国際開発学を勉強させて頂いた高橋侑子と申します。

世界がグローバル化し、人ととの関わりが国境を超えて、草の根レベルでの交流も密接になる中、ビジネスがどのようにその国人、社会、環境にどのような役割を果たせるか、また果たしていくべきかに関心があったことから、Globalization, Business and Sustainable Developmentを専攻しました。楽しくも苦しくもあった充実した1年であり、あっという間に終わってしまった印象ですが、とても貴重な二つのことを得ました。それは、人との繋がりの大切さと、人生観についてです。

大学院には世界各国から学生が集まり、国際開発の分野での経験や知識が豊富なコースメイトから学ぶこともとても多く素晴らしい環境でした。また、色々な方々に支えられ、無事に卒業することができたことで、心から信頼、尊敬できる方々と出会えたこの縁に感謝すると共に、人ととの繋がり、人間関係の構築はとても大切な財産であると痛感しております。

さらに、私が出会ったイギリス人の生き方は、私の人生観をより豊かにしたと思います。仕事をする傍ら、ボランティア活動にも参加する人々、チャリティーショップやフェアトレード商品を普段から利用する人々、自分の感情を大切にしつつも生きる意味ややりがいを求め生活する人々に出会い、自分の人生の目標や、大切にすべきことをより深く考えるきっかけとなりました。社会の一員として、色々な人から恩恵を受けて生きているということに感謝し、日常生活の中で自分ができる範囲で社会に貢献しようとする考え方を見習うべき人生観だと考えます。

こうした考え方、ロータリーの精神にも通じていると考えており、人との繋がりを大切にしながら、世界貢献しようと努力をすることは、これからも生涯持ち続けていきたい精神です。多くの学びと、自己成長の機会を与え、支えてくださったロータリークラブの皆様に心より感謝しております。本当に有難う御座いました。



Rotary International Scholars eveningにて
ノリッヂクラブ会長のコリンさんと共に（2016年3月）



イースト・アングリア大学国際開発学部の
コースメイトと共に

ロイヤルキングスクール洋裁事業報告

富岡 恵 (RI第2510地区推薦／VTT)

2015年、職業研修チームとして料理と洋裁を教える為、タイのノンカイ地区にあるロイヤルキングスクールに派遣されました。こちらの学校には、両親がいない子や虐待をうけていた子、様々な理由で集まった子どもたちが、小学校から高校まで寮生活をしながら学んでいます。後ろ楯のない子どもたちが、高校を卒業後に路頭に迷い再び同じ生活に戻らないよう、自立していく力や術を身に付けてもらう為の事業です。先方からは、洋裁やデザインを教えてほしい！との事でしたが、期間が短く、街には限られた材料しかない。洋服の作り方（製図や縫製）は国によって異なるため、日本の作り方を一方的に教えるのでは、私達の自己満足になってしまうと思いました。そこでひらめいたのがREMAKE（再製）。使わなくなった服や布小物などを、手を加え新しい物に生まれ変わらせるのはどうか。リメイクのテクニックは万国共通で手作業も多く、ミシンが使えない時も手が止まる事もないし、街で手に入る物で出来る。それぞれのアイデアを形にする事で、発想の転換や新しい発見が出来るのではないか？と提案。マリーさんからもOKを頂き早速材料を集め、授業に入りました。

現地のBROTHERミシンの方に来てもらい、この事業で寄付されたミシンの詳しい使い方の説明を受けました。そしてあっという間に発表会。作る前とリメイクした後の写真を事前に撮影し、一人一人紹介しながら登場。みんなの前をファッションショー形式で歩き発表しました。みんな黙々と作業をしてくれたので1人も遅れる事なく完成し、今回も大成功で終わる事ができました。今回のリメイクを選んだ理由の一つに、お金がなくても技術や発想は、お金以上の物を作る事ができ、体感することで少しでも彼らの希望の糧になるのではないかという思いがありました。ものづくりの考え方生き方のヒントになってくれたら嬉しいです。



笑顔で作業する子どもたち



作業が終わって全員集合

財團學友會活動報告

- 2016年3月 · 卓話 於：かながわ湘南RC

2016年5月 · 米山学友会歓迎会 (於：札幌パークホテル)
· 地区学友委員会 財団学友会合同役員会 親睦会
(於：札幌学院大学社会連携センター)

2016年8月 · 地区学友委員会 (於：札幌学院大学社会連携センター)

2016年10月 · 地区大会並行プログラム (於：札幌パークホテル)

2016年11月 · 米山学友会総会 懇親会 (於：札幌パークホテル)
· 地区学友委員会 (於：札幌学院大学社会連携センター)

2016年11月 · 日本ロータリー学友会第6回全国大会 財団100周年シンポジウム
(於：東京 東京海洋大学品川キャンパス・JPタワーホール)

2016年12月 · 札幌幌南ロータクトクラブ クリスマス会
(於：北広島 児童養護施設 天使の園)
· 地区学友委員長・学友会会长の打ち合わせ (於：ホテルエミシア札幌)

2017年1月 · 地区学友委員会学友体験・帰国報告会実行委員会
(於：札幌学院大学社会連携センター)
· 学友体験・帰国報告会 (於：札幌パークホテル)

2017年3月 · ニューズレター編集委員会 (於：札幌学院大学)

米山学友会活動報告

- 2016年8月 · 米山学友会役員会 (於：札幌)
2016年9月 · 米山学友会役員会 (於：札幌)
2016年10月 · 米山学友会役員会 (於：札幌)
2016年11月 · 米山学友会（北海道）定時総会 (於：札幌第一ホテル)
2017年1月 · 米山学友会役員会 (於：札幌)
2017年2月 · 米山学友会役員会 (於：札幌)
2017年3月 · 米山学友会役員会 (於：札幌)
2017年4月 · 米山学友会（北海道）歓迎会 (於：京王プラザホテル)
· 米山学友会（北海道）清掃事業 (於：豊平川)
2017年6月 · 米山学友会（北海道）会報作成 (於：札幌学院大学社会連携センター)

○●○ 編集委員会 ○●○

菅原 秀二 (地区学友委員会 委員長)

李英愛(地区学友委員会委員)

菅原 桂子 (財団学友会 副会長)

上野智恵美 (財団学友会 会計)